

令和 7 年度

福島県環境審議会議事録

(令和 7 年 9 月 29 日)

1 日時

令和7年9月29日（金）

午前 10時30分 開会

午前 11時45分 閉会

2 場所

杉妻会館4階牡丹の間（福島市杉妻町3-45）

なお、一部委員はリモートにより参加した。

3 議事

(1) 福島県環境基本計画の進行管理（令和7年度版福島県環境白書）について

(2) 福島県環境教育等行動計画の進行管理について

4 出席委員

委員22名中出席19名

飯島和毅、植木和子、熊本隆之、今野万里子、齋藤澄子、高野イキ子、武田憲子、反後太郎、丹野淳、丹野孝典、角田守良、長渡真弓、中野和典（議長）、新妻和雄、西村順子、沼田大輔、藤田壮、村島勤子、吉田淳

以上19名（五十音順）

※ 上記のうち、熊本隆之委員、今野万里子委員、丹野淳委員、新妻和雄委員、西村順子委員、藤田壮委員、吉田淳委員はリモートにより参加した。

5 欠席委員

生島詩織、肱岡靖明、門馬和夫

以上3名（五十音順）

6 出席職員

(1) 生活環境部

加藤靖宏	カーボンニュートラル推進監兼次長
角田和行	環境回復推進監兼次長
渡邊一博	環境共生課長
吾妻正明	自然保護課長
清野弘	水・大気環境課長
高橋伸英	一般廃棄物課長
國井芳彦	産業廃棄物課長
鶴巻貴司	中間貯蔵・除染対策課

(2) 危機管理部

長南丈裕	原子力防災課副課長兼任主査
------	---------------

菊地広幸 原子力安全対策課主幹兼副課長

(3) 企画調整部

鈴木健文 企画調整課主幹

吉川正大 エネルギー課主幹

(4) 商工労働部

齋藤俊之 企画主幹

(5) 農林水産部

鈴木大介 企画主幹

(6) 土木部

齋藤高史 企画主幹兼土木企画課副課長

(7) 教育庁

梅野克也 高校教育課主幹

7 事務局出席職員

生活環境部

宍戸陽介 部長

佐藤司 政策監

笹木めぐみ 生活環境総務課長

高橋慶太 企画主幹

8 結果

(1) 開会

(2) 挨拶 宍戸生活環境部長

(3) 議事

議事については、中野和典委員を議長として審議を進めた。なお、議事録署名人として、議長より高野イキ子委員と村島勤子委員が指名された。

ア 福島県環境基本計画の進行管理（令和7年度版福島県環境白書）について

事務局（生活環境総務課長）から資料1-1～1-3により報告を行った。

質疑については以下の通り。

【沼田委員】

「工場・事業場等のリスクコミュニケーションの実施事業場数」の指標について、達成率が70%未満となった課題分析にアンケート回収率が半減したことが影響している可能性があるとのことだが、回答数に対する実施事業所数とするなど、回答率に依存しないような、より適切な指標をご検討いただきたい。

【水・大気環境課長】

当該指標については、一部の地域で対象事業所数を確保しなかったこと等が影響して

おり、今後は、できる限り母数が一定となるよう対象事業所数を確保してまいります。ご指摘いただいたより適切な指標については、今後、検討してまいります。

【沼田委員】

「イノシシ、シカの年間捕獲頭数」の指標について、昨今県民が気にしているのがクマではないかと思う。クマは達成率に入れにくいか。

【自然保護課長】

イノシシとシカについては、指定管理鳥獣として県で捕獲目標を定めて直接捕獲を実施しています。クマについては、昨年4月に国で指定管理鳥獣に指定されたが、県としての捕獲目標値を定めて、捕獲を進めるということは行っていない状況です。

クマは専門家による検討委員会における議論を基に目標値の設定について検討してまいります。

【沼田委員】

そのような検討状況についても、資料に追記いただいたほうがよいと感じた。内容については承知した。

【長渡委員】

「再生可能エネルギーの導入量」の指標に関連して、メガソーラーについては、先達山の件などトラブルが散見されるが、今後、メガソーラーも含めて再生可能エネルギー導入を推進して指標の達成率を上げていくのか。また、メガソーラーも含めて推進するのであれば、何か改善等は行っていくのか。

【エネルギー課主幹】

再生可能エネルギーの導入推進にあたっては、その種別や規模にかかわらず、法令を遵守し、地元の方々の御理解のもと、安全や環境、景観に十分に配慮し、地域との共生を図ることが重要と考えております。

市町村や国との連携を一層強めながら関係法令に基づき適切に対応してまいりたいと考えております。

【長渡委員】

先達山のメガソーラーに関しては、ニュース等で拝見したが県の方へも陳情書を渡していたと思う。完成後に住民生活へのマイナス面が多く出ていると思うが、それに対して県からの指導や対策をとることは今後もないのか。設置するにあたって適切な環境保全がなされるように、市民生活が守られるように指導や何らかの対策を取って再生可能エネルギーを導入していくべきではないかと思う。環境保全、カーボンニュートラルなど本来の目的が達成できるように推進するよう今後検討していただきたい。

【中野議長】

この議論に関連して、「森林整備面積」の指標の達成率が低い。森林が整備されていないのにメガソーラーが増えている状況があるので、一体のものとして考えていただきたい。

【中野議長】

「イノシシ、シカの年間捕獲頭数」の指標について、シカの捕獲頭数が目標値を大き

く超えている一方、イノシシの捕獲頭数が目標値に達していないのは、イノシシの個体数が減っているからか。減っていることが原因であれば、目標値を達成できていないことは悪いことなのか。

【自然保護課長】

イノシシとシカについては、国において生息数を半減させるよう全国的に進めているところであり、県としても生息頭数を推計し、それを半減させるために年間の目標値を設定しています。

イノシシについては、近年、豚熱の影響等により生息数が減少しているため捕獲頭数が目標値を下回っているが、豚熱が収まってきた地域では頭数が回復しつつあるため、目標値を下げずに最大限の捕獲を実施していくこととしております。

また、シカについては、近年、生息地が拡大している状況にあり、捕獲数が伸びています。シカについては、管理計画の改定作業を進めており、その中で捕獲目標頭数の見直しを検討しているところです。

【斎藤委員】

地域によっては、イノシシの頭数は増えていると感じている。イノシシは、稻刈り前の時期に電気柵を設置しても間に合わないほどである、またシカの頭数も増加している。頭数ではなく、人の生活への影響をいかにして減らしていくのかが重要と考えている。繰り返しになるがクマの目標値の設定も早めの検討をお願いしたい。

【自然保護課長】

イノシシについては捕獲が対策の中心であり、地域ごとに頭数の制限を設けず、引き続き最大限捕獲していきます。また、被害防除には、電気柵の設置やイノシシを誘引する果樹等の伐採、藪の刈り払い等を含めた総合的な対策が必要であり、農林水産部とも協力しながら対応してまいります。

クマについては、イノシシやシカと異なり、国においても頭数を減らすのではなく保護と管理のバランスが重要であるとしており、県の専門家による検討委員会においても「生息頭数が増えているのは間違いないが、被害の増加について一概に頭数の増加によるものと判断するのは慎重な検討が必要」との御意見をいただいているため、引き続き議論を重ねながら検討してまいります。

【中野議長】

「有機農業等の取組面積」の指標について、目標値と最新値が乖離しているが、基本的には農業者は減っていく方向になるので、取組面積は減っていく。有機農業に取り組まれている方の割合などの指標に修正しなければ、今後も達成は難しいかと思われる。今後も面積で評価するのか。

【農林水産部企画主幹】

当該指標は県の総合計画においても指標となっているため、引き続き、今の指標のまま評価していきたいと考えております。ご指摘いただきましたとおり農業者数は減少しております。一方で、令和7年5月までの直近1年間で391名の方が新たに農業に従事され、新規就農者数は過去最高となりました。県といたしましては、引き続き、有機農

業の推進と新規就農者の確保に向け取組を進めてまいります。

【中野会長】

それでは他に質問等ありませんので、議事1につきましては本日いただいた御意見等を踏まえて環境白書のとりまとめを事務局で進めていただく、さらにいくつか検討事項が出てきましたので検討をお願いします。

イ 福島県環境教育等行動計画の進行管理について

事務局（生活環境総務課長）から資料2－1～2－3により報告を行った。

質疑については以下のとおり。

【齋藤委員】

「福島県環境創造センター等を活用した環境教育等」の分類の3つの指標について、この実績値は福島県内からの利用者のみか、それとも県外からの利用者も含むのか。

【生活環境総務課長】

コミュタン福島の利用者数につきましては、県内外からの利用者を合わせた数値となります。

【齋藤委員】

これらの指標では、福島県内の利用者の実績値を把握していないということか。

【生活環境総務課長】

入館者数、利用者数につきましてはフリーで入る方も多くいるので県内外の別を明確に把握することは困難と考えております。

【齋藤委員】

コミュタン福島は県の学校などが団体で行った場合、人数の把握はしていないのか。

【生活環境総務課長】

コミュタン福島の利用者数につきましては、小学校の来館率を押さえています。今小学校の60%弱がコミュタン福島に学習活動に来ていただいている状況です。

【齋藤委員】

出来れば県として把握しているなら記載してもよいかと思う。

【村島委員】

学校における環境教育で「ゼロカーボン宣言事業（学校版）」の目標940校とあるが、県内何校ある中の940校を目標にしたのか、教えてほしい。

【環境共生課長】

学校版と記載ありますが、学校は小・中学校、特別支援学校、幼稚園まで含めて考えています。全ての数、はつきりとは把握はしていませんが、今年度は980校という目標を掲げて取り組んでおり、ほぼ宣言していただいている状況です。おそらく1000くらいの数と推定しております。

【村島委員】

目標を達成しているように見えるが、実際の学校数がわかれば、県内でどのくらい達成出来ているかがわかるので、そのあたりの表記をお願いしたい。

【長渡委員】

「森林づくり意識醸成活動の参加者数」とあるが、主な活動はどのような活動を指しているのか教えていただきたい。

【農林水産部企画主幹】

森林づくり意識醸成活動は、一例としてもいる案内人等があり、そのような方々を活用しながら学校も含めて活動に参加している数です。手元に明確な資料がないので、例示としてお答えしました。

【長渡委員】

もりの案内人は県内各地で活動されているが、指標に市町村単位で実施している数は含まれていないのか

【農林水産部企画主幹】

こちらについては詳しい数値を確認し、後ほど回答いたします。

【長渡委員】

市町村でもいろいろな活動をしていたり、有志の団体で活動しているところもあるので、県だけでなく、そのような情報も拾っていただければ、活動意欲も増えてくるのかと思う。

【飯島委員】

「コミュタン福島を活用して環境学習を行った県内小学校の割合」55.9%という数値が出ているが評価なしとなっているのは、令和12年度の目標値しかないから現時点では評価なしということなのか。

【生活環境総務課長】

おっしゃる通りです。

【飯島委員】

そうであれば、他の指標と扱いが違うのかと思います。例えば「東日本大震災・原子力災害伝承館の来館者数」は各年度の目標値があるから、年度ごとの達成率を評価しているが、コミュタン福島の指標は令和12年度の目標値100%しかないから評価なしであると、コミュタン福島の最終的な評価が出ていくのが令和12年度となり、令和12年度まではずっと評価なしで対策なしのままいくということになってしまふのではと思う。せめて毎年度でなくとも中間的な期間に目標値を設定して、最終的な令和12年度の目標を達成できそうなのか、出来なさそうなのかというのをしっかりと評価をして対策を打つ方がいいのではないか。

【生活環境総務課長】

「コミュタン福島を活用して環境学習を行った県内小学校の割合」の目標値100%いうのはチャレンジングな数字となっておりますが、本指標は他の計画での指標にもなっているためすぐに変えることは難しいところもあります。しかしおっしゃるとおり、どうやって数値を上げていくのかというのは非常に重要だと考えております。実際には学校訪問をしたり、市町村の教育委員会を直接回って底上げを図っているところでございます。ただ実際には遠方で行きたいとは思っているが来られないところもあります。交

通費の助成などはしているのですが、それでも時間がかかるので行けませんといったこともあります、100%にはなりづらいところでもございます。目標値の設定がそもそもどうなのかといったこともございますが、現状では令和12年度の目標値を動かせない状況であり、毎年少しづつ努力を重ねていき、少しでも数値を上げていきたいと考えております。

【飯島委員】

遠方で来られない学校に対しては、出張で出かけていく、またはウェブを使って環境学習をしてもらうなどの取組もやっていると思うので、來ることだけではなくてそのような取組も含めた目標値を設定してもよいのではと思うし、いきなり100%ではなくて中間的な目標を例えば令和8年、9年に設定することも少し考えた方がよいのかと思う。

【中野議長】

私も同じところを見ていた。資料2-3で経時変化を確認できるが、残念ながら横ばいなのでこのままだと100%には到達しないと思う。令和12年度の目標値100%に対する中間目標のようなものがあった方がよいと感じた。出張講座、オンライン講座の方は数字に入っているか。出張講座、オンライン講座にはまだ取り組んでいないのか。

【生活環境総務課長】

数字には入っておりませんが、要請があればオンライン等でのご説明にも対応しております。

【中野議長】

実績値が上がらない理由が距離の問題であるならば、オンラインも含めた数値を入れたらよいのではないか。

それから「猪苗代湖における水草回収等ボランティア参加者数」も同じように令和12年度の目標値しかなく、実績値に対して評価なしとなっている。新型コロナウィルスの影響で一度数値が下がって、なかなか数値が上がってこないが何か対策等はあるのか。

【水・大気環境課長】

おっしゃるとおり、新型コロナウィルスの影響で一時参加者数が大幅に減少したが、最近は徐々に回復傾向にございます。県では引き続き漂着水草の回収やヒシの刈り取りなど、県民の皆さんにご参加いただき水環境保全に取り組んでまいります。

【中野会長】

こちらも中間目標がないので、難しいとは思うが、どのように目標を達成できるのか、その道筋も考えていただければと思う。

【水・大気環境課長】

令和12年度の目標を12,000人として今後毎年の評価を行ってまいりたいと思います。

【角田委員】

伝承館の来館者数の見直しについて、今後着実に来館者数が着実に増えていくという見立ての元での見直しになっているが、令和6年度の数値が令和5年度よりも減少しているという直近の状況がある中で、増やしていくという形になる。この直近の減った理由は何かあるのか。

【企画調整課主幹】

細かい数値の分析について今資料を持ち合わせていません。観察等は増えていますが、教育旅行の部分が伸び悩んでいるという傾向があると聞いていますので、詳細は担当課に確認し回答します。

【丹野孝典委員】

「環境教育副読本を用いて学習を行った県内小学校の割合」について69%ということであるが、ここには放射線、放射性物質などについて学ぶ内容も含まれているのか。

【生活環境総務課長】

放射線関係の内容についても含まれております。

【丹野孝典委員】

危惧しているのが、小学生、中学生、高校生は放射線量や放射性物質の基礎知識を持っている人が少なくなっているという話を聞く。被災県でこれから伝承していく時に、副読本には入っているが理解度が進んでいないのか、それとも学習の中でその部分を詳しく教えていないのか、そのあたりはいかがか。

【生活環境総務課長】

副読本は対象を小学校5年生程度として作成をしています。理解度というところを副読本のアンケートから伺うことは難しいですが、例えばコミュタン福島に来館していただいた場合には必ず、放射線に関する基礎知識は学校等にはご説明しており、来ていただいた方については概ね理解できたというアンケート結果が多くなっております。副読本の提示やコミュタン福島を通して放射線教育を受ける機会の提供ということについては一生懸命に行っていきたいと思っております。コミュタン福島にご来館いただきなど、教育サイドに対する働きかけも行ってまいりたいと思います。

【沼田委員】

飯島委員がおっしゃっていることについて、評価しないところを放っておいていいのか。議題（1）で私が事前質問したところと関連するが、今の形だと対象年度の目標がない場合は評価なしになってしまう。評価なしになっているものについては令和12年度目標値との差で評価するという形で、別指標として入れていただいた方がよいのではないかと思う。

次に伝承館については県外の方がたくさん含まれているデータということは考えさせられる。どこを向いた福島県環境教育等行動計画になっているのか改めて考えていただきたい。

さらにこちらにある指標は全て参加した数や受講者数などになっている。今議論すべき内容ではなく行動計画を改定するときに議論しなければならないかも知れないが、理解度を何らかの指標で入れる必要があるのではないかと思う。例えば、家庭における環境教育を指標なしで済ませてしまつてよいのか。次期行動計画を策定する時に考えていただくべきことなのかもしれないが、次の評価が令和12年度であればまだ先の話になつてしまうので、もう少し理解醸成、理解・認識指標を検討していただきたい。

【生活環境総務課長】

委員がご指摘されたとおり、指標を設定する、あるいはどういった指標がふさわしいのかということについては、計画策定時に十分議論すべきところであろうと思っております。まだ計画の途中の段階になりますので、どういった形で可視化するかということに関しては内部で検討していきたいと考えております。

【中野議長】

たくさん御意見いただきまして、この意見を踏まえて事務局でとりまとめをお願いします。

【生活環境総務課長】

一点よろしいでしょうか。先ほどの発言を修正させていただきたい部分がございます。「コミュタン福島を活用して環境学習を行った県内小学校の割合」55.9%の中にオンライン受講者数の数は含まれないとご説明いたしましたが、確認したところ、オンラインや出前講座での数も含まれておりましたので、そちら修正させていただきたいと思います。

【中野議長】

そうなるとなかなか数が増えていかない、厳しくなったと感じた。ここでいただいた御意見を踏まえて事務局で取りまとめていただき、次年度の方針の検討もお願いします。

(4) その他

【中野議長】

これで本日予定していた議事は全て終了いたしましたが、その他、委員の皆様及び事務局から何かございますか。

特になし。

(5) 閉会

【事務局（生活環境総務課）】

中野会長、委員の皆様、ありがとうございました。

議事1、2につきましては本日の審議会で頂戴した御意見等の内容を事務局で整理させていただき、中野会長に御確認いただいた上で環境白書等にとりまとめを行ってまいります。

以上で、福島県環境審議会を終了いたします。本日はお忙しい中、御出席いただきありがとうございました。